ぐんまを学ぼう

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」や「ぐんま絹遺産」を活用した学習の充実に向けて

令和８年３月

群馬県教育委員会
義 務 教 育 課

はじめに

本冊子は、群馬県内の豊かな文化財や伝統的な年中行事を教材として取り上げ、小・中学校の社会科学習指導案例を作成したものです。群馬県は、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」や日本遺産「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」をはじめ、「ぐんま絹遺産」、「東国文化」等、多様な歴史遺産や文化財に恵まれた地域です。そして、その魅力を次世代に伝えることは、私たちの重要な使命であると考えます。

本冊子が、教職員の皆様の素晴らしい授業の一助となり、児童生徒が群馬県の歴史や文化、それらを大切に守り続ける人々の思いに触れ、郷土に誇りを持つきっかけとなることを願っております。

結びに、本冊子を作成するに当たり、御尽力いただいた各文化財保護団体の皆様、各市町村教育委員会及び関係各学校の皆様に深く感謝申し上げます。

群馬県教育委員会
義務教育課長　佐野　美幸

冊子の見方

本冊子の学習指導案例は、「はばたく群馬の指導プランⅡ」が示す社会科の問題解決的な学習の過程（「つかむ」「追究する」「まとめる・生かす」）を参考に構成されています。以下のように、2つの冊子の対応するページを照らし合わせながら御活用ください。

「はばたく群馬の指導プランⅡ」のページ

2つの冊子を照らし合わせて使用する。

本冊子のページ

目　次

○冊子の見方
○小学校　第4学年「県内の伝統や文化」
　1 単元のつくり方例
　2 単位時間のつくり方例
　3 学習指導案例　単元名「残したいもの伝えたいもの」
○中学校　歴史的分野「身近な地域の歴史」
　1 単元のつくり方例
　2 学習指導案例　大単元名「近代国家の歩みと国際社会」
　　　　　　　　　小単元名「近代産業の発展と近代文化の形成」

１　単元のつくり方例

小学校　第4学年　「残したいもの、伝えたいもの」（全7時間）

【目標】
　歴史的背景や現在に至る経過、保存や伝承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できる。

教材選びのポイント

　見学・調査を通じて、文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いが具体的に理解できるものが望ましい。
（例）　A　県内を代表する歴史的建造物や遺跡　　　B　民俗芸能などの文化財
　　　　C　地域の人々が楽しみにしている祭り等の年中行事　　　D　日本遺産や世界遺産　等

基本的な学習活動

１　単元の課題を把握し、学習計画を立てる。

◇上毛かるたをきっかけに、県内の文化財や年中行事等について話し合い、大単元の学習への見通しを持つ。
◇単元の課題をつかむ。

【単元の課題例】県内に古くから残るものは、どのようにして受けつがれてきたのでしょうか。

◇単元の課題に対する予想をし、整理する。
◇調べる内容や方法等を考え、学習計画を立てる。

「つかむ」過程における支援のポイント

○ 単元の課題の基となる疑問を持てるよう、県内の文化財や年中行事（調査対象教材）を概観した後、多くの古いものが長い間受け継がれてきた理由を問いかける。
○ 単元の課題をつかめるよう、古いものが現在まで受け継がれてきた理由について明らかにすることを学習の目的に設定する。
○ 予想を基に、学習計画を立てる。

２ 単元の課題の解決に向け、追究する。

教材例Ａ　富岡製糸場（富岡市）
　明治時代、日本初の官営製糸場として、産業の中心を担ったのだね。操業終了後もたくさんの人に大切に保存されてきたことで、現在は、世界文化遺産に指定されたのだね。

教材例Ｂ　春日神社太々神楽「蚕の舞」（前橋市）
　神様に捧げる踊りとして、お面をかぶった舞子たちが蚕を育てる様子を息の合った動きで表現しているね。養蚕とともに懸命に生きた当時の農家の記憶を受け継いでいるね。

教材例Ｃ　鳥追い祭り（中之条町）
　農業の豊作を願い、作物を食べる鳥や害虫が逃げていくように、大きな太鼓をたたく祭りなのだね。防鳥網や農薬が広がった今も受け継がれているね。

「追究する」過程における支援のポイント

○ 単元の課題を解決できるように、各単位時間で一つの文化財や年中行事がどのようにして受け継がれているか調べ、まとめる。
※ 個別に学習計画を立てた場合は、各自が調べる内容や方法を選択できるよう、多様な学び方に応じた環境の構成を重視する。
（例）資料コーナーの設置、リンク集の提示、教師や友達と調べる場の設定　等
○ 調べたことを各自がまとめられるよう、調べる視点ごとに整理できる表を用意する。
○ 文化財や年中行事に対する地域の人々の願いに気付けるよう、調べた事実を基に、現在まで残されてきた意味を問いかける。

３ 単元の課題についてまとめ、自分たちにできることを考える。

◇県内に古くから残るものについて学習したことを基に、結論について話し合う。

　県内の文化財や年中行事は、長い間地域の人々が協力して受け継いできたものであり、それらには保存・継承や地域の発展等、人々の様々な願いが込められている。

◇単元全体を振り返り、自分たちにできることを考える。

　地域に古くから残る文化財や年中行事には、人々の願いが込められており、地域社会の一員としての自覚を持って保存・継承のために何ができるか考えていくことが大切だと思った。

「まとめる・生かす」過程における支援のポイント

○ どの文化財や年中行事にも、受け継いできた地域の人々の願いがあることに気付けるよう、調べた事象に共通することを問いかけ、話し合う場を設ける。
○ 地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりできるよう、児童の身近な地域における文化財や年中行事に見られる課題に関わる資料を提示する。

2 単位時間のつくり方例

「つかむ」過程

第1時 【ねらい】

上毛かるたの札の内容について話し合ったり、調べたりすることを通して、県内には古くから残るものがあることや、地域の発展に尽くした先人がいたことを理解し、大単元の学習内容の見通しを持てるようにする。

学習活動

1 本時のめあてをつかむ。

私たちの身の回りにはどのような古いものがあるでしょうか。
上毛かるたをヒントに探してみましょう。

【めあて】
上毛かるたから、群馬県内の古くから残るものを探してみよう。

2 上毛かるたの札に描かれた古くから残るものや地域の発展に尽くした先人について調べる。

・〇〇には行ったことがあるよ。
・だるまは家にあったよ。
・富岡製糸場は有名だね。
・この人は誰なのかな。
・この建物はどこにあるのかな。

3 調べたことを基に、絵札に描かれた文化財を地域や種類ごとに分類し、分かったことや疑問に感じたこと、さらに知りたいことを伝え合う。

・家の近くの〇〇は古くからあったことが分かったよ。
・〇〇はこんな事をした人だったことが分かったよ。
・どうして群馬では〇〇が有名になったのだろう。
・〇〇についてもう少し知りたいな。

4 本時の学習の振り返りをして、大単元のめあてをつかむ。

〈振り返り〉
今まであまり気にしたことがなかったけれど、県内に古いものや昔の偉い人がたくさんいることが分かった。どのようなものや人がいるのか知りた

【大単元のめあて】
県内にはどのような古いものが残されているのでしょうか。また、きょう土のはってんにつくした人々は、どのようなことをしてきたのでしょうか。

指導上の留意点

◇県内の古くから残るものについて考えるきっかけを持てるよう、上毛かるたに取り上げられる文化財や年中行事、地域の先人について問いかける。

※学習用端末でアプリも活用するなどして、上毛かるたに日常的に触れておくことが望ましい。

◇様々な文化財や年中行事、地域の先人の情報に触れ、興味関心を高めることができるよう、十分な時間を確保する。

◆「上毛かるた」で見つける群馬のすがた
群馬県地域創生部文化振興課 発行

【ポイント】
調べた事だけの伝え合いにならないよう、調べた後の感想等も伝えるようにします。

◇以後の学習内容について整理して把握できるよう、児童が関心をもった札や事象について、「①古くから残るもの」(文化財や年中行事)と、「②地域のはってんにつくした人々」とに分類して板書する。

◇大単元のめあてをつかめるよう、児童の振り返りを共有し、古くから残るものや地域の発展に尽くした先人について、今後、具体的に追究していくことを確認する。

第2時【ねらい】
　県内に古くから残るものについて単元の課題をつくり、その解決に向けて学習計画を立てることを通して、課題解決の見通しを持てるようにする。

学習活動	指導上の留意点

学習活動

１　本時のめあてをつかむ。

【めあて】
　資料を見て単元の課題をつくり、学習計画を立てよう。

上毛かるたに詠まれていない古くから残るものもたくさんありますね。こうした古いものは、どうして長い間受け継がれてきたのだと思いますか。

２　富岡製糸場、春日神社の太々神楽、中之条の鳥追い祭りについて、現在でも残されている理由を話し合い、単元の課題を設定する。

古い建物やお祭りを残していくのは大変だと思うから、地域の人が協力してきたのだと思うな。

きっと戦争や災害があった時代は続けられないときもあったと思うよ。

世界遺産に登録するまでには、きっとたくさんの人たちが頑張ったと思うな。

【単元の課題】
　県内に古くから残るものは、どのようにして受けつがれてきたのだろう。

３　単元の課題の解決に向けて学習計画を立てる。

学習計画表　例
①　調べる「富岡製糸場」
②　調べる「春日神社の太々神楽」
③　調べる「中之条の鳥追い祭り」
④　これまで調べたことをまとめ、学習課題の答えを出す

<調べる視点>
・はじまりやこれまでのできごと
・だれがどのように受けついできたのか
・人々の思いや願い

<調べる方法>	<まとめ方>
・パンフレット　・Web ページ ・保存会へのインタビュー	・一覧表にまとめる

例のように、各単位時間で事象を一つずつ調べる場合のほかに、グループで一つの事象を選び、3時間をかけて詳しく調べて、学級全体で共有する方法も考えられます。

４　単元の課題を確認し、学習の振り返りをする。

〈振り返り〉
　古くから残るものをだれが、どのように受けついできたのかとても気になったので、次の時間はそこから調べていきたい。

指導上の留意点

富岡製糸場	太々神楽	鳥追い祭り
約 150 年前	200 年以上前	約 400 年前

◇単元の課題につながる問題意識を持てるよう、提示した古いものが受け継がれてきた期間を提示し、長い間受け継がれてきた理由を問いかける。

【ポイント】
　単元の課題は、古くから残るものが長い間受け継がれてきた理由を多面的に考えて話し合う中で、方向付けられていきます。教師は、児童の考えを受け止めたり、問い返したりする等、話合いをファシリテートしましょう。
　また、単元の課題は、児童の発した言葉のままに立てるのではなく、追究の結果、児童に身に付けさせたい概念的知識と、問いと答えの関係になるように、あらかじめ想定しておきましょう。

【ポイント】
　学習計画の<調べる視点>は、単元の課題を立てる際に話し合った、古くから残るものが長い間受け継がれてきた理由を基に設定できます。
　また、調べる時間や調べる方法、まとめ方は、児童の実態に応じて調整したり、児童が選択できるように幅を持たせたりしましょう。

※学習計画は、学習の進捗状況に応じて修正・追加が可能であることを共有する。
◇調べる方法を考えられるよう、これまでの学習で用いた方法を問いかけたり、有効な資料を一部紹介したりする。
※保存会へのインタビュー等の聞き取り調査は、関係者にゲストティーチャーとして来校を依頼したり、事前にインタビューを録画して資料化したりする等の方法も考えられる。
◇今後の見通しを持てるよう、疑問に思ったことや次時に調べたいこと等の視点を提示して記述するよう促す。

2 単位時間のつくり方例 ［富岡製糸場の例］

「追究する」過程

第３～５時　【ねらい】
　富岡製糸場について調べ、図や文にまとめたり説明したりすることを通して、文化財の価値や歴史的背景等を理解できるようにする。

学習活動	指導上の留意点

１　本時のめあてをつかむ。

古くから大切に残されてきたものには一体どんなひみつがあるのかな？

【めあて】
　富岡製糸場は、どのように受け継がれてきたのでしょうか。

２　調べる視点に沿って、資料を基に情報を集め、読み取った内容を整理する。

２人で協力して調べることにしたよ！

ぼくは富岡製糸場で働く人に、知りたいことをメールで質問しよう！

わたしは図書館や図書室に行って、たくさんの資料を調べたいな！

自分で学びをつくる楽しさを実感！

３　調べたことを学級全体で共有し、図や文にまとめたり説明したりする。

調べる視点（例）

調べること	富岡製糸場	春日神社太々神楽	中之条鳥追い祭り
いつごろ、どんな**理由**から始まったのか？			
これまでの**主な出来事**は？			
どのようにして受け継がれてきたのか？			
どんな**人たち**が関わった？			

４　本時（第３～５時）のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

【まとめ】
富岡製糸場は、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、受けつがれてきた。

【ポイント】
前時で学習計画表に書いた調べる視点を確認することで、この後の活動の見通しを持つことができます。

【ポイント】
教師は児童の多様な学びを支えられるよう、環境の構成を重視します。（資料コーナーの設置や外部との連絡調整、書籍の紹介、リンク集の提示　等）

＜追究のための資料例＞

◆群馬県立世界遺産センター

　富岡製糸場と絹産業遺産群のポータルサイトです。キッズページも充実しており、富岡製糸場の調べ学習に適しています。

◆ぐんま絹遺産

　富岡製糸場に関連する県内の絹産業・養蚕業について幅広く調べる活動に適しています。

【ポイント】
他の県内文化財や年中行事と比較して共通点を探ることで、単元の課題に迫ることができます。

だから世界遺産になったんだ！

他にも古い物を探しに行きたいな。

＜振り返り＞
　建物だけでなく、それを守ってきた時代ごとの人々の努力がすごいと思った。僕たちにもできることがあるのかもしれない。

2 単位時間のつくり方例［春日神社の太々神楽の例］

「追究する」過程

第３～５時　【ねらい】
　春日神社の太々神楽について調べ、図や文にまとめたり説明したりすることを通して、保存や継承のための取組、人々の願い等を理解できるようにする。

学習活動	指導上の留意点
１　本時のめあてをつかむ。	【春日神社　蚕の舞】

太々神楽は私の地域にもあるけれど…
誰が、どのようにやっているのかな？

【めあて】
　春日神社の太々神楽は、どのように受けつがれてきたのでしょうか。

おもしろそうだね。
どんなお話なのか知りたいな。

【教材例Ｂ　春日神社太々神楽「蚕の舞」】
　古くから養蚕の盛んであった本県には、多くの養蚕・絹に関する文化財や史跡などが残されています。春日神社の太々神楽にある「蚕の舞」は、当時の人々の生活の様子や養蚕とともに懸命に生きた農民の姿が再現されており、県指定重要無形民俗文化財（令和６年３月指定）、ぐんま絹遺産に登録されています。

２　「調べる視点」に沿って、資料を基に情報を集め、読み取った内容を整理する。（※）

【ポイント】
　太々神楽は、かつて多く神社で奉納されていましたが、現在では後継者不足が課題となっている団体が多く、保存や継承のための取組について追究するテーマに適しています。
　校区等に神楽を奉納する神社等がある場合、実際に訪ねたり、関わっている方に話を聞いたりすることで児童の理解がより一層深まることも期待できます。

【元旦に舞いを奉納する地元の小中学生】
／　咲前神社（安中市）

そういえば、私の家の近くの神社でも「太々神楽」をやっているけれど、どんな舞いがあるのかな。

※　学習活動３・４については、「教材例Ａ　富岡製糸場」のものを参考にしてください。

＜追究のための資料＞

◆ぐんま絹遺産　MAP

　養蚕や製糸に関するMAPです。絹産業全体を関連付けする活動に適しています。

◆文化財保護課／前橋市

　市内文化財に関する普及活動を行っています。キッズページやリンクも充実しており、地域の情報収集に適しています。

◆ 群馬県立文書館

　県内の貴重な文書資料を多数保管しています。資料活用の方法や授業づくりの相談、見学、授業協力等の依頼も受け付けています。

◆春日神社太々神楽保存会

（前橋市 HP より）

市役所等に紹介してもらい、直接インタビューする等して深く教材研究をしましょう！

　明治期から受けつぐ１４の神楽舞や設備備品を保存しています。20名を超える舞子達は固い絆で結ばれています。

2　単位時間のつくり方例［中之条の鳥追い祭りの例］

「追究する」過程

第３～５時　【ねらい】
　中之条鳥追い祭りについて調べ、図や文にまとめたり説明したりすることを通して、現在に至る経緯や人々の努力等を理解できるようにする。

学習活動	指導上の留意点
１　本時のめあてをつかむ。 【めあて】 　中之条町の鳥追い祭りは、どのように受け継がれてきたのでしょうか。	 【中之条鳥追い祭りの様子】

【教材例Ｃ　中之条鳥追い祭り】
　中之条の鳥追い祭りは豊作（五穀豊穣）を願って害鳥・害虫などを追い払う祈りを込めた行事で、県指定重要無形民俗文化財に指定されています。また、祭りを盛り上げる大小 13 個の太鼓は、県指定重要有形民俗文化財に指定されています。養蚕や絹産業に直接関わりがなくても、未来に残したいものや伝えたいものが群馬県にはたくさんあります。

２「調べる視点」に沿って、資料を基に情報を集め、読み取った内容を整理する。（※）

【ポイント】
児童が「現在に至る経緯」について考える際には、祭りそのものだけでなく、人々の生活の変化に着目して捉えられるよう支援します。

☆　生活の変化の例
・核家族化　　・農家の減少
・少子高齢化　・仕事や働き方の多様化　等

戦争でなくなってしまったお祭りもあるって聞いたことがあるよ。

【ポイント】
児童が「人々の努力」について考える際には、様々な立場の人々の多様な努力があることに目を向けられるよう、扱う資料等を工夫して支援します。

☆　様々な立場の例
・祭りを継承する人　・祭りに参加する人
・観光で訪れる人　　・支える人　　　等

「お祭りに関わる」と言っても、いろいろな方法があるのだね。

※　学習活動３・４については、「教材例Ａ　富岡製糸場」のものを参考にしてください。

＜追究のための資料＞

◆中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」

　中之条に関する豊富な郷土資料があり、企画展や講座・講演会なども開催しています。

◆ぐんま地域文化マップ（群馬県教育文化事業団）

　本県の伝統文化・芸能・祭り・行事等について総合的に知ることができ、市町村ごとにジャンルや時期を絞って検索することができます。

【ポイント】
実際に「保存会」や「実行委員会」の方にお話を伺う場合は、単元の実施時期に合わせて事前に連絡をとり、協力を依頼するとよいでしょう。

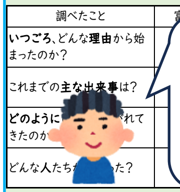
実際にお話が聞けるのであれば、どんなことを聞こうかな。リストを作ろう。

2 単位時間のつくり方例

「まとめる」過程

第6時 【ねらい】
　一人一人が、追究してきた単元の課題の結論をまとめることを通して、県内の伝統や文化と、それらに関わる人々の様々な願いや思いが込められていることを理解できるようにする。

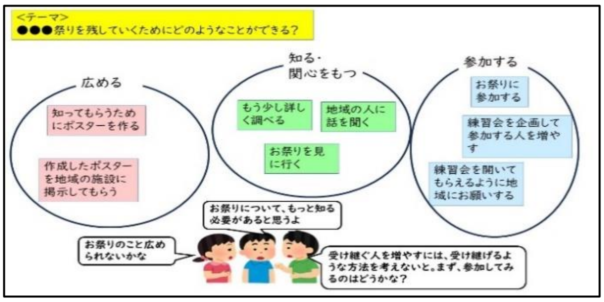
学習活動	指導上の留意点
1　単元の課題を確認し、本時のめあてをつかむ。 今日は、単元の課題の結論を考えよう。 【めあて】 　調べたことを基にして、県内に古くから残るものはどのようにして受け継がれてきたのかをまとめよう。	◇学習活動を振り返り、本時のめあてをつかめるよう、単元の課題や学習計画表を提示する。 【単元の課題】 　県内の古くから残るものは、どのようにして受け継がれてきたのでしょうか。
2　一人一人が表にまとめた情報を基に、単元の課題の結論を考え、文にまとめる。 「富岡製糸場や、年中行事などは、昔から大切に保存され、受け継がれている。そこには、「残したい」というたくさんの人の願いや思いも受け継がれている。」とまとめてみたよ。	◇保護・継承に向けて多様な立場から努力や工夫をしていることに気付けるよう、調べた文化財や年中行事に共通する人々の思いを問いかける。 文にまとめることが難しい場合は、その支援として、箇条書きや、共通点をキーワードとしてまとめる等の方法も考えられます。
3　学級全体で、単元の課題に対する結論を話し合 受け継ぐ人や、支える人等、様々な立場の人がいるけれど、残すためにいろいろな努力や工夫をしていたね。共通点は、大切にされていて、これからも残していきたいということだね。 【まとめ】 　県内の文化財や年中行事は、長い間地域の人々が協力して受け継いできたものであり、それらには保存・継承や地域の発展等、人々の様々な願いや思いが込められている。	◇保護・継承のための活動が多岐にわたることに気付けるよう、努力や工夫をしている人々の立場や関わり方を問いかける。 児童の発言から、活動内容や人（立場）をキーワードとして板書等で整理します。 ◇まとめの後、文化財や年中行事についての未来が予想できるよう、文化財維持や後継者不足の問題等、身近な文化財や年中行事が抱える問題に関わる資料を提示する。
4　これまでの学習と、提示された資料から考えたことも含めて振り返りをする。 <振り返り> 　群馬県にはいろいろな文化財や年中行事があって、人々に大切にされ、受け継がれてきていることが分かった。しかし、それらがなくなる可能性もあることに気付いた。残すにはどうしたらいいか考えたい。 このままだと身近なお祭りもなくなるのかな。 自分たちにも何かできることはないかな。	地域への誇りや愛着、地域の一員としての自覚を促すことも本単元で目指す大切な資質・能力の育成につながります。 ◆祭りの危機 | NHK for School ◆第2回ぐんまの伝統芸能アンケート調査結果報告書 （令和6年6月 公益財団法人群馬県教育文化事業団） （※ 群馬県内の現状については、pp.18-28 参照） ※児童が追究の際に調べたり、聞いたりしたことから「継承の難しさ」に触れている記述等があれば、それを取り上げてもよい。



2 単位時間のつくり方例

「生かす」過程

第7時 【ねらい】
　学習したことを基に、地域の文化財や年中行事の保護や継承に向けて、自分たちにできることを考え、話し合う活動を通して、地域に対する誇りや愛着を持ち、地域の一員としてそれらに関わろうとする態度を育てる。

学習活動	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 【めあて】 　自分たちの地域の文化財や年中行事を受け継ぐためにどのようなことができるのかを考えよう。 受け継がれてきたものでも、なくなってしまったものもあったね。小さい頃から見ていた●●祭りがなくなるのはさみしいな。自分はどんなことができるかな。	◇本時のめあてをつかめるよう、前時の児童の振り返りを共有し、自分たちの地域で課題となることを問いかける。 【ポイント】 地域の文化財や年中行事は複数あることが考えられます。導入で地域の人の話を紹介したり、家族に地域の様子を事前に聞いたことを紹介したりする活動を取り入れると、検討する地域の課題が焦点化されます。
2　地域の課題を基に伝統や文化を保護・継承していくための方策を考え、伝え合う。 受け継ぐ人が少なくなっているって聞いたよ。 練習会に参加してみるのはどうかな。 ●●祭りに行ったことがないからよく分からないよ。 まずは、知ることも大切なことだと思うよ。	◇方策を考える際の手がかりをつかめるよう、前時で示した保護・継承に関わる活動や人などをキーワード化して提示する。 【ポイント】 自分で方策を考えることが難しい児童には、追究する過程で調べた取組の中から、よいと思う取組と理由を問いかけて考えを持つきっかけを作ります。
3　学級全体で方策について整理し、その中から自分が保護・継承のためにできることを選択・判断する。 思いを受け継ぐ方法もできそうなこともたくさんあるけれど、やっぱり受け継ぐ人を増やすことが大切だと思うから、友達を誘って練習会に参加したいな。 知ってもらうことが大切だと思うから、お祭りのよさが分かるようなポスターを作りたいな。	◇選択・判断する際に自分の考えを広げたり、深めたりできるように、児童が伝え合っていた方策と提示したキーワードを関連付けて分類して、板書上でまとめ、学級全体で共有する。 
4　単元全体の学習の振り返りをする。 <振り返り> 　地域に古くから残る文化財や年中行事には人々の願いが込められており、地域社会の一員として自覚を持って保存・継承のために何ができるか考えていくことが大切だと思った。	【ポイント】 振り返りでは、地域の一員として保存・継承に関わろうとする意欲につなげるために、各自が保存・継承のための方策を検討できたことを称賛します。

社 会 科 学 習 指 導 案

単元名「残したいもの　伝えたいもの」〔学指要領：⑷ア(ｱ)（ｳ)、イ(ｱ)〕

令和○年○○月○○日（○）　第○校時　○○室
○○○立○○小学校　○年○組　○○名　指導者　○○　○○

Ⅰ　単元の構想

1　小単元の目標及び児童の実態

	目　標	児童の実態
知識及び技能	・県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解することができる。 ・見学、調査したり地図などの資料で調べたりして収集した情報を、年表などに整理してまとめることができる。	
思考力、判断力、表現力等	・歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考えたり、地域の伝統や文化の保護や継承に関わって、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、表現することができる。	
学びに向かう力、人間性等	・県内の伝統や文化について、主体的に問題解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 ・思考や理解を通して、地域の伝統や文化に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。	

2　評価規準

知識・技能	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組について、見学・調査したり地図やパンフレットなどの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財や年中行事の様子を理解している。 ②調べたことを年表や表にまとめ、県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展などの人々の様々な願いが込められていることを理解している。
思考・判断・表現	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、問いを見いだし、県内の文化財や年中行事の様子について考え表現している。 ②文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付け、文化財や年中行事を受け継ぎ保存していることの意味を考えたり、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。
主体的に学習に取り組む態度	①県内の文化財や年中行事について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、地域の文化財や年中行事を保護したり継承したりするために、自分たちにできることを考えようとしている。

3　本単元の指導及び評価の計画（全９時間：本時第９時）　※別紙参照

Ⅱ　本時の学習（９／９）

１　ねらい　笹森稲荷神社の保存や例大祭の継承の課題に対して自分たちにできることを話し合うことを通して、学習したことを基に、保存や継承の方法を考えたり選択・判断したりして表現し、地域社会の一員としてそれらに取り組もうとする思いを持つことができる。

２　展　開

主な学習活動 予想される児童の意識〔Ｓ〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
１　前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（５分） ＜めあて＞ 笹森稲荷神社やお祭りを残すために、自分たちにできることは何だろう。 Ｓ：このまま笹森稲荷神社に関わる人が減ると、忘れられてなくなってしまうかもしれないな。何か自分たちにもできることはないかな。	○笹森稲荷神社の課題を自分事として捉えられるように、宮司さんや地域の人が感じている課題をまとめた表を掲示し、10 年後の神社の姿や福島地区に与える影響を問いかける。 ○これまでに学習したことを参考に自分たちにできることを考えられるように、前時の振り返りに書かれた取組の具体を紹介したり、富岡製糸場や高崎だるま、八木節の保存・継承のための具体的な取組を問いかけたりする。
２　笹森稲荷神社の保存や例大祭の継承の課題に対して、自分たちにできることを考えたり、グループで分類して整理したりする。（20 分） Ｓ：笹森稲荷神社の知名度を上げたり、例大祭への参加人数を増やしたりするために、今、自分でできることとして舞の練習に参加したいな。 Ｓ：将来みんなでできることとして、マスコットキャラクターを作ることやＳＮＳを活用した動画配信などの方法もあるのだな。 Ｓ：桐生の八木節まつりでは、保存協会の人が市内の各学校を訪れて、広める活動をしていたな。笹森稲荷神社の浦安の舞でも同じようにできるのではないかな。	○参加人数の増加や知名度の向上など、多面的に自分たちにできることを考えられるように、取組を考える際に「効果がある」の視点を提示する。 ○実現可能性や持続可能性の側面から自分たちにできることを考えられるように、取組を考える際に「無理なくできる」の視点を提示する。 ○互いに考えた取組について効果や持続可能性の観点から比較して分類・整理できるように、２つの視点と座標軸を示したワークシートをグループにつき１枚用意する。【別紙参照】 ○自分たちにできることを考えられず悩んでいる児童には、富岡製糸場や高崎だるま、八木節の保存・継承に関する取組を参考にするよう助言する。
３　学級全体で笹森稲荷神社の保存や例大祭の継承のために自分たちにできる取組を話し合い、選択・判断する。（15 分） Ｓ：舞や太鼓の練習はすぐに始められると思ったけど人数がそろうまで時間がかかるかもしれないな。 Ｓ：まずは、今すぐに始められるポスター作りや学校で舞を体験するなどの取組から始めて、将来的にマスコットキャラクターを作るなどの活動をしていきたいな。 Ｓ：より多くの人に周知できるという点で、ポスターを作ることは効果がありそうだな。	○様々な取組とのその根拠に気付けるように、各グループで検討した結果、最も効果的で無理なくできると考えたもの一つを紹介するとともに、その理由を説明するよう促す。 ○一つの取組を行うだけでなく、将来を見通して、様々な取組を行っていくことの有用性に気付けるように、「まずどの取組から始めていくのがよいか」を問いかける。 ○学習を生かして具体的な取組を選択・判断できるように、その取組について選んだ理由とともに記述するよう促す。
４　本時のめあてに対する自分の考えを確認し、学習内容の振り返りをする。（５分） Ｓ：笹森稲荷神社を昔のようににぎやかな姿に戻すために、まずはポスター作りや学校での体験から始めて、将来的にマスコットキャラクターを作っていけたらいいな。	**◆評価項目（思❷）（態❷）** ワークシートの記述内容から「県内の文化財や年中行事に対する人々の願いや努力を根拠に、地域のために自分たちができることを考えたり選択・判断したりしているか」を評価する。

＜振り返り＞

笹森稲荷神社は 1200 年の歴史があり、宮司さんを中心に地域の人たちが大切に思って伝統を守ってきたことが分かった。自分も福島地区の一員として、例大祭のポスターを作って学校やこども園にお知らせしたり、直接参加したりするなど、笹森稲荷神社のお祭りがにぎやかになるようにしたい。

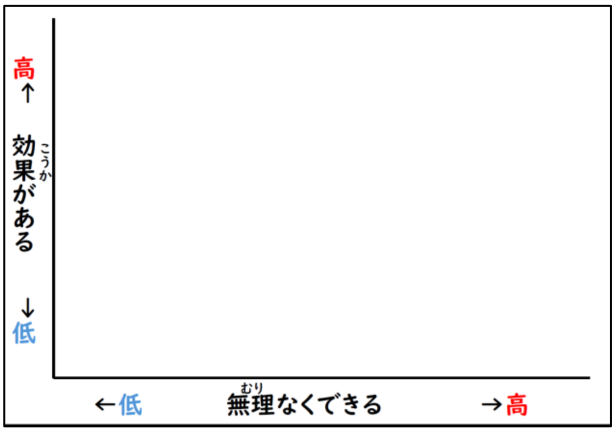
（別紙）

３　指導及び評価、ICT の計画（全９時間：本時９時間）　　　※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	**大単元の課題　県内にはどのような古いものが残されているのだろう。また、きょう土のはってんにつくした人々は、どのようなことしたのだろう。** ・富岡製糸場や高崎だるま、八木節祭りについて、すでに知っていることやよく知らないことを話し合い、単元の課題をつかみ、学習計画を立てる。 **単元の課題　県内に古くからあるものは、どのようにして受けつがれてきたのだろう。**		①	①
2	・富岡製糸場の歴史的背景や現在に至る経過を調べ、年表に整理する。(a)	①		
3	・富岡製糸場の保存や継承のための取組を調べ、表に整理する。(a) (b)	①		
4	・高崎だるま・八木節祭りの歴史的背景や現在に至る経過を調べ、年表に整理する。(c) (d)	①		
5	・高崎だるま・八木節祭りの保存や継承のための取組を調べ、表に整理する。(c) (d) (e)		❶	❶
6	・これまで調べた情報を表に整理し、単元の課題の答えを考え、話し合う。	❷	②	
7-8	・地域の笹森稲荷神社を見学し、保存や継承のための取組について聞き取り調査をする。	❶		
9	・笹森稲荷神社の保存や例大祭の継承の課題に対して、自分たちにできることを話し合う。		❷	❷

＊活用するコンテンツ等：(a) ｾｶｲﾄ HP ｷｯｽﾞﾍﾟｰｼﾞ　(b) Web ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ「世界遺産富岡製糸場と絹産業遺産群」
(c) 群馬県達磨製造共同組合 HP (d) 桐生市 HP　(e)高崎市 HP

＜ワークシート＞



Ⅰ　単元のつくり方例

中学校　歴史的分野　(2)「身近な地域の歴史」(例　全8時間)

【学習指導要領上の位置付け】

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ)　自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事項との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表にまとめたりするなどの技能を身に付けること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ｱ)　比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(内容の取扱い)

(2)については、内容のB以下の学習と関わらせて計画的に実施し、地域の特性に根ざした時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの地域の施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。

内容のB以下と関わらせた学習活動の例

1　小単元の課題を把握し、学習計画を立てる。

◇小単元の課題を把握する。

【小単元の課題例】
なぜ近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。

◇学習する時代の身近な地域の歴史的事象を、日本全体の歴史的事象に加えて、調べる内容に設定する。

2　小単元の課題の解決に向け、追究する。

小単元の課題に関わる日本全体の歴史的事象の例
- ○　明治期の日本の軽工業や重工業、財閥について
- ○　都市や農村での生活の様子、社会問題について

教材例　明治期の桐生市における産業の発展と人物
- ○　身近な地域の当時の情報を収集する。
- ○　調査テーマを設定し、調査計画書を作る。
- ○　現地調査を行う。
- ○　調べた情報を基に年表や地図、スライドなどにまとめる。
- ○　まとめたことを発表し、それを基に議論する。

3　小単元の課題をまとめ、学びの振り返りをする。

◇近代化によって人々の生活が大きく変化したことについて、自分の言葉でまとめ、話し合う。

日本の産業革命による近代化は、輸出産業の充実に伴い、都市部を中心に生活や文化の向上につながった。一方、労働問題や公害、貧富の差の拡大など、社会問題が顕在化した。

◇地域の歴史と私たちとのつながりなどに着目して、小単元の学びの振り返りをする。

桐生市は、生糸や絹織物の生産地として、明治～大正期の日本の発展を支えた重要な地域であることが学習を通じてよくわかった。この伝統を生かして未来の街づくりに関心を寄せていきたい。

「身近な地域の歴史」実施上のポイント

◆「身近な地域の歴史」の位置付け

「身近な地域の歴史」は、単元の課題解決に向けた調査対象の一つとして、学習過程に位置付けることで、Ｂ以下の内容理解を一層深めることが期待できます。また、課題が明確になるため、調査テーマの設定が容易になります。

◆ 社会科と総合的な学習の時間の連携

社会科の単元の課題

当時の日本の歴史

身近な地域の歴史(総合の導入を兼ねる)

社会科のまとめ

探究課題例「伝統文化」
(探究的な学習の過程)

社会科で地域調査を行う場合には、「総合的な学習の時間」の時数でカウントする事例が多くあります。社会科の追究と、総合の導入を兼ねて実施するカリキュラム・マネジメントを検討します。また、学年職員がチームとなって指導体制を整備することで、より安全で、丁寧な調査を指導することにつながります。

地域施設の活用ポイント

◆ 市町村立図書館　郷土資料室

調査テーマ設定前の基礎調査での活用が特に有効です。レファレンスサービスを活用して、単元の課題に関する多様な情報を収集します。

◆ 地域の博物館、郷土資料館など

調査テーマ設定後の現地調査での活用が効果的です。学芸員の方に解説を事前依頼します。

・県内の博物館等施設一覧へのリンク　－　群馬県ホームページ(文化振興課)

社　会　科　学　習　指　導　案

大単元名「近代国家の歩みと国際社会」
小単元名「近代産業の発展と近代文化の形成」〔学指要領：Ａ(2)ア(ｱ)イ(ｱ)、Ｃ(1)ア(ｴ)イ(ｱ)〕

令和○年○○月○○日（○）　第○校時　○○○○

○○○立○○中学校　２年○組　○○名　指導者　○○　○○

Ⅰ　単元の構想

１　小単元の目標及び生徒の実態

	目　標	生徒の実態
知識及び技能	・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解できる。 ・桐生市に受け継がれる伝統や文化に関心をもち、産業や文化の近代化との関わりの中で、地域の歴史を調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりできる。	
思考力、判断力、表現力等	・工業化の進展と政治や産業の変化、近代化がもたらした文化への影響などに着目し、事象を相互に関連付け、近代の社会の変化の様子について、日本と桐生市の二つのスケールから多面的・多角的に考察し、表現できる。	
学びに向かう力、人間性等	・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。	

２　評価規準

知識・技能	・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 ・桐生市に受け継がれる伝統や文化への関心をもち、産業や文化の近代化との関わりの中で、地域の歴史を調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりしている。
思考・判断・表現	・工業化の進展と政治や産業の変化、近代化がもたらした文化への影響などに着目し、事象を相互に関連付け、近代の社会の変化の様子について、日本と桐生市の２つのスケールから多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・明治期における我が国と身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。

３　大単元の構成と本小単元の位置付け

	・学習活動　☆大単元の課題　○小単元の課題	時数
大単元の導入	・これまでの学習や小学校の学習を基に、「大単元の課題」について考察し、学習計画を立案している。 ☆「近代国家の建設を目指すことで、社会はどのように変化したのだろうか。」	1
小単元１	○「欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか。」	5
小単元２	○「欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか。」	4
小単元３	○「明治政府はどのような国づくりを進めたのだろうか。」	3
小単元４	○「日本の近代国家建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。」	4
小単元５	○「なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。」	4
小単元６	**○「なぜ近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。」 ・明治～大正期の桐生市の近代化について具体的な事物を取り上げて調査する。**	**13 総合８含**
大単元のまとめ	・近代前半の日本を大観して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、多面的・多角的に考察し、時代の特色を表現する。	1

4　本小単元の指導及び評価の計画（全13時間：本時第５時）　※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	大単元の課題　近代国家の建設を目指すことで、社会はどのように変化したのだろうか。 ・小学校社会科６年歴史の教科書で既出の写真資料などを基に、都市での生活変化の理由や、社会運動・女性運動の背景を話し合い、単元の課題を設定し、学習計画を立てる。 小単元６の課題　なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。			○
2	・明治期の日本の軽工業や重工業、財閥、都市や農村での生活の様子、社会問題について調べ、工業化の進展による人々の生活への影響を整理してまとめる。	○		
3	・明治期の学問・教育・科学・芸術の具体を調べ、当時の文化の特色を整理してまとめる。	○		
4	・明治期の桐生市における産業の発展、工業化の進展による人々の生活への影響、著名な文化人や科学者等に関して、地図やWebサイト、文献資料、統計資料で情報を収集する。	○		
5	・グループごとに調査テーマを設定し、調査計画書を作る。		○	○
6-8	・計画に基づいて、グループごとに現地調査を行う。	○		
8-10	・調査テーマについて調べたことを、年表などを用いて整理し、スライドにまとめる。	●		
11-12	・パネルディスカッション形式で発表し、フロアと議論を行う。		○	
13	・近代化により人々の生活が大きく変化した理由を、日本と桐生市の二つのスケールから多面的・多角的に考察し、文章でまとめる。		●	●

Ⅱ　本時の学習（５／13）

1　ねらい　　明治期の桐生市の様子についてグループの調査テーマを設定し、調査計画書を作ることを通して、現地調査や調査結果のまとめへの具体的な見通しを持つ。

2　展　開

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1　本時のめあてをつかむ。（５分） <めあて> 調査テーマを設定し、調査計画書を作成しよう。 S：調査計画書では、現地調査で訪れたい場所や施設、聞き取り調査の質問項目、調査結果のまとめ方など、あらかじめ具体化しておくのだな。	○本時の学習の見通しを持てるように、学習計画表を参照する時間を設けるとともに、調査計画書を提示し、必要記入項目を説明する。 ○調査テーマの設定や調査計画書の作成に対する具体的なイメージを持てるように、前年度の生徒が作成した調査計画書の例や現地調査の様子の写真等を提示する。
2　明治期の桐生市における産業の発展、工業化の進展による人々の生活への影響、著名な文化人や科学者等に関して事前に調べたことを紹介し合い、調査テーマを設定する。（20分） S：桐生の絹織物・生糸産業にとって明治～大正期は、技術革新による輸出の急増を背景に「飛躍の時代」だったと言えるな。桐生駅前に「旧桐生撚糸合資会社」という模範工場があったとは驚いたな。 S：なるほど、人物では講談社を創設した野間誠二も有名だが、先の工場（日本絹撚株式会社に改称）の社長を務めた前原悠一郎も地元で有名なようだ。 S：当時の工場で工員たちはどのような仕事や生活をしていたのか興味があるな。日本絹撚株式会社の事務所の一部が資料館として現存しているのだな。 S：「前原誠一郎や工員たちはどのような暮らしを送っていたのか」を調査テーマにしよう。	○調査テーマ設定の基盤となる知識を補完しつつ得られるように、前時に明治期の桐生における、織物産業の様子、生糸産業の様子、学問・科学等に貢献した人物、町や庶民生活の様子、の四つのジグソーグループで事前に調べる時間を確保する。 ○調査グループのメンバー同士が各々の視点で事前に調べたことを共有できるように、各班に桐生市年表、迅速即図、大正期の1/25,000地形図の写しを用意し、説明の際に関係する部分を参照するよう促す。 ○調査テーマを設定できるように、事前に調査テーマの好例と悪例を例示するとともに、事前に調べたことの共有によって生じた疑問や気付きを基に調査テーマを設定するよう助言する。その際、テーマに調査の中心となる具体的な人物名や施設名を含めると方向性が導きやすいことを助言する。
3　グループの調査計画書を作る。（20分） S：働く工員は富岡製糸場のように女性が多かったと思う。周囲の村々から募集をかけたのだろうか。	○調査計画書を作る際には、グループの調査テーマに対する仮説を検証するための調査内容と方法を具体化できるよう助言するとともに、ルートマッ

S：絹撚記念館ホームページによると、前原悠一郎の企画展を過去にしたことがあるようだ。学芸員の方に彼の人物像や当時の様子を質問できるな。 S：先生の話で工場の動力にも興味が湧いてきたな。 S：学校から絹撚記念館まで自転車で 10 分程度だ。当日は当時の工場の電力供給についても調べたいから、水力発電の遺構にも立ち寄ろう。 S：工場の発展の様子や記録を地図や年表でまとめるとよいレポートになりそうだ。	プや所要時間を想定し、実施当日までに教師との相談を経ることを完成の条件にする。 **◆評価項目（思〇・態〇）** 調査計画書の記述内容や交流、発言の様子から、「調査テーマの探究に向けて現地調査の内容や方法、調査結果のまとめへの具体的な見通しを持っているか」を評価する。
４　本時の学習の振り返りをする。（５分） **＜振り返り＞** S：今日は現地調査に向けて具体的な見通しを持つことができた。当日までに予備知識を集め、よい発表ができるように整理を進めておきたい。	○本調査の意義を自覚できるように、各グループの調査テーマ調査方法を一覧表示し、小単元の課題の解決と各々の取組を関連付けて価値付ける。 ○調査に関連する知識を身に付けられるように、教室内に郷土資料コーナーを設置し、関連書籍や資料などを用意しておく。